

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 電気通信学研究科			博士前期課程		情報工学専攻	
氏 名		呂 美蓉			学籍番号 0232056	
論 文 題 目		日本語係り受け解析における複数ポーズ情報の利用				
要 旨						
<p>人間の発話には、アクセントやイントネーションといった韻律情報が含まれている。それらの情報は、日本語の文節間の修飾、被修飾の関係(係り受け関係)に関する情報を含んでおり、構文解析に重要な役割を果たすと考えられる。</p> <p>これまでの研究において、韻律情報、特にポーズ情報が係り受け解析に有効であることが報告されている。ポーズ情報として使用されていたのは、着目文節の直後のポーズ長のみであったが、もう少し広範囲でのポーズ情報も有効である可能性が考えられる。</p> <p>そこで本研究では、複数のポーズ情報に着目し、それぞれと係り受け距離との統計的な関係を線形結合によって統合し、係り受け解析実験を行った。また、基本周波数(F0)概形を表す特徴量を用い、複数のポーズ情報と結合した場合の有効性についても検討を行った。</p> <p>複数ポーズにおける実験は、まず、従来の着目文節の直後のポーズ長(第1ポーズ)と、着目文節の直後の文節の直後のポーズ長(第2ポーズ)の併用について実験した。その結果、第1ポーズのみを使用した場合より文正解率が向上し、第2ポーズの有効性が確認された。</p> <p>次に、第1ポーズと第2ポーズに加え、着目文節の直前のポーズ(第0ポーズ)の利用も試みた。3種類のポーズ長情報を線形結合によって統合した結果、第1ポーズと第2ポーズを併用した場合より更に文正解率の向上が見られ、第0ポーズ情報を加えることの有効性が確認された。</p> <p>また、複数ポーズ情報とF0情報を結合した場合、わずかに精度が向上したものの、その効果はあまり大きくはなかった。</p> <p>線形結合における係数の最適値について、本研究では事後的に求めたため、話者や実験セットによって最適値が変わる。今後、自動的に決める方法が課題として残されている。また、複数ポーズ情報を統合する他の方法や、ポーズ長分布およびF0分布をより正確に近似する関数などについても検討する必要がある。</p>						